

不登校に対する組織的な支援体制づくり

ほっとルームを拠点として

特別研修員 後藤 秀幸

本校の課題

不登校問題にもっと組織的に取り組まなくては・・・。

職員間の情報の提供・交換・共有をもっと効果的に行わなくては・・・。

ほっとルームを拠点として

チームによる指導・援助

不登校問題に関する情報の発信、啓発

教育相談研修による知識・技術の習得、意識の向上

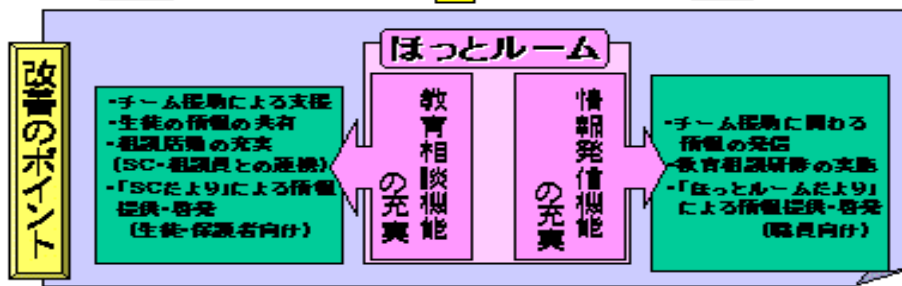
基本的な考え方

教育相談の充実・不登校問題の解決

組織的な支援体制

情報の共有・共通理解

協働意識



生徒

学校・職員

本校の実態

- 不登校傾向にある生徒が各学年に見られる。
- 「ほっとルーム」の利用が少ない。
- SC相談員への相談依頼が少ない。

- 不登校傾向にある生徒に組織的に対応できていない。
- 不登校傾向にある生徒の情報が十分に共有できていない。
- 不登校問題に関する意識や資質のさらなる向上が必要である。

実践から学んだこと

その1

「チーム援助」で

情報は動き、共有される。

その2

情報が動き、共有されると、

協働意識は高まる。

その3

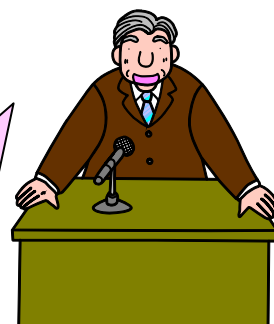
コーディネーターは

人や情報をつなぐ。

その4

コーディネーターは

「チーム援助」の要！



組織的な支援

コーディネーター
の動きが組織の動き
を決める。

つながりを意識し
た動きを心がけてい
きましょう。

